

図 5 (a)

No.13 の 実験結果

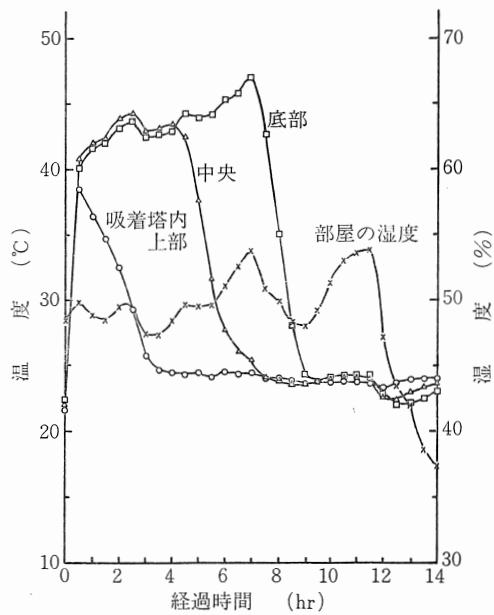


図 5 (b)

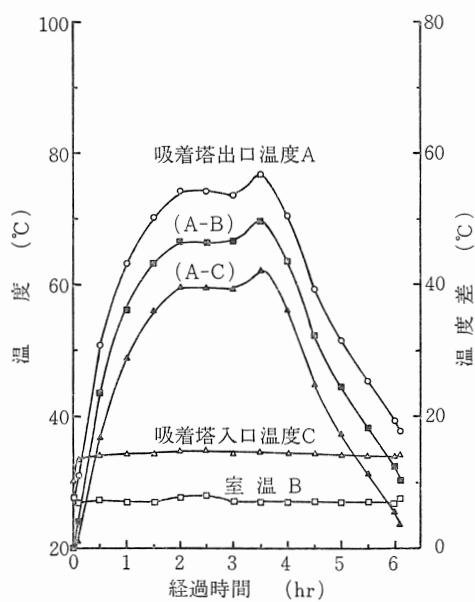


図 6 (a)

No.30 の 実験結果

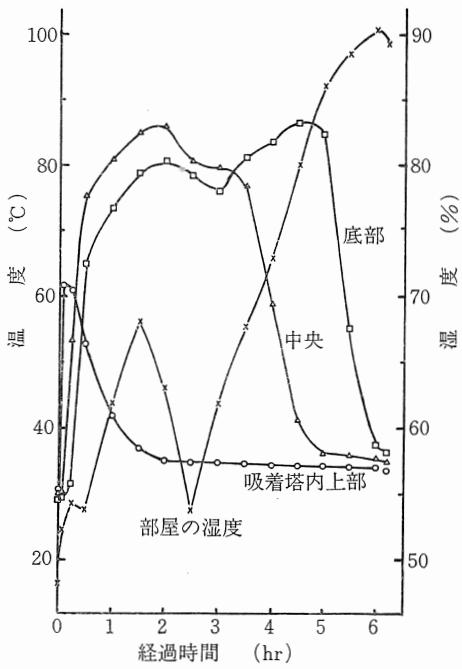


図 6 (b)

徐々に減少させたためである。

実験によって得られた暖房出力と再生温度の関係を図7、図8に示す。再生温度が200°Cまでは再生温度が高くなるにつれて暖房出力が大きくなつたが、再生温度が200°Cを越えると再生温度を上げても暖房出力はそれほど大きくならなかつた。これは図9のゼオライトによる水の等圧吸着平衡図に示されるように、再生温度が200°C以上では温度を上げても吸着容量がわずかしか減少しないためである。つまり再生温度が200°C

までは再生温度を上げると水の脱着量が多くなり吸着工程での水の吸着量が多くなるが、再生温度が200°Cを越えてももうほとんど変化しなくなるためである。

図7、図8の中で再生温度が200°C以上の実験結果で暖房出力が下がっているものがあるが、これは再生のときに吸着塔出口の空気温度が入口の空気温度に近づくとすぐに加熱を停止したため、脱着した水が完全に運び去られなくて再生が十分行われなかつたのであろう。ゼオラムA-4とゼオラムF-9では、ゼオラムF











